

内装用針葉樹合板の製造

はじめに

北海道内の針葉樹原木の生産量は今後増加する見込みですが、今後はこれらの原木の用途を拡大していくことが重要です。これらの原木の新たな用途として内装用合板への利用があります。針葉樹合板を内装用として使用する場合、針葉樹特有の木目や節が表面に現れるため、これらの視覚的な評価を調べ、針葉樹に適した合板を製造することが重要になってきます。そこで、単板の種類や配置等の異なる様々なタイプの合板を製造し、アンケート調査を行いました。

内装用合板の製造

道産カラマツと道産トドマツの人工林材を用いて、内装用合板（3×6尺、5プライ）を試作しました。心板と裏板にはロータリー単板を、表板にはスライス単板およびロータリー単板を使用しています。樹種、単板の種類、単板の連続性、節の有無等の異なる様々なタイプの合板を製造しました（写真1）。

アンケート調査

製造した内装用合板を20代から60代までの男女120名に見てもらい、アンケート調査を行いました。アンケートは内装用合板を被験者から約2m離れた位置に設置し、図1に示すような用語と7段階の尺度を用いて行いました。それぞれの合板の平均得点を図2に示しました。

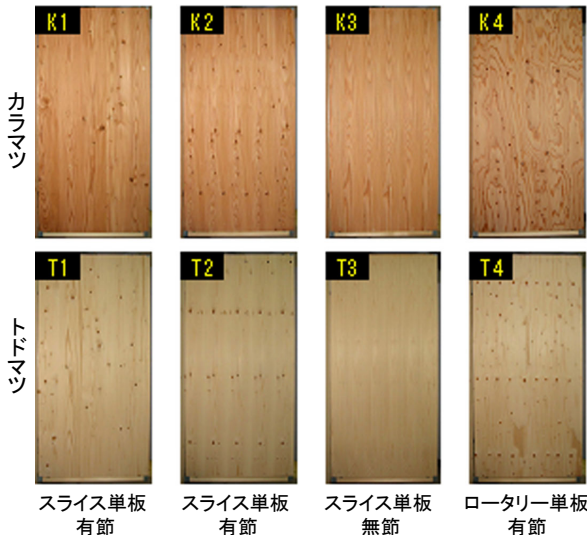


写真1．製造した内装用合板

明るい
好きな
自然な

暗い
嫌いな
人工的な

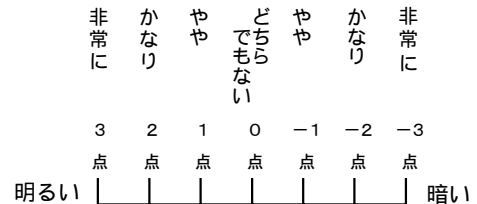


図1．アンケートの用語と尺度

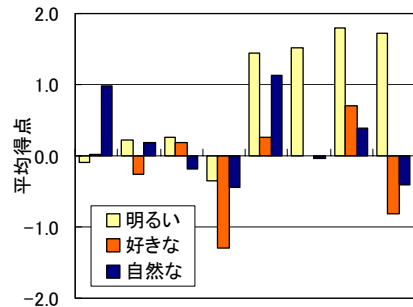


図2．内装用合板の平均得点

住宅への施工例

道産トドマツ内装用合板（写真T1タイプ、厚さ9mm）を実際の住宅に使用した例を写真2に示しました。



和室天井への施工

洗面所への施工

写真2．実際の施工例